

WINDOW



足摺岬(土佐清水市)



ひろめ市場



棚田(本山町吉延)



雲海(大豊町梶ヶ森)

2016
Spring
No.64

特集

インバウンドを呼び込む！
高知県の観光情報を世界へ！

- 国際ふれあい広場2015開催
- 当協会の補助金を活用した国際交流団体の活動報告
高知SGG善意通訳クラブ
- A Letter From Abroad
下司 政代(シニア海外ボランティア・カンボジア派遣中)
- 高知県海外技術研修員が国際交流イベントに参加
異文化理解講座を四万十市と安芸市で初開催！
- INFORMATION BOARD
高知県国際交流員退任あいさつ
GENKI青年会土佐弁ミュージカル2016開催のご案内

国際ふれあい 広場2015を 開催しました

今年も10月6日の「国際協力の日」(*)を記念し、県民の皆様へ国際協力や国際交流活動についてより身近に感じていただけるためのイベント「国際ふれあい広場2015」をひろめ市場よさこい広場等にて開催しましたので、その様子を写真等でご報告します。

- 開催日時：平成27年10月18日(日) 午前10時～午後4時
- 会場：ひろめ市場よさこい広場、大橋通商店街(北側)
- 出展団体：11団体(順不同)

- ①奥村多喜衛協会 ②高知県青年海外協力隊OB会 ③高知大学医学部 アジア・僻地医療を支援する会 ④デルタ・カップ・ガンマ・ソサエティー・インターナショナル日本支部 ⑤高知SGG善意通訳クラブ ⑥高知県フラ協会 ⑦オイスカ高知県推進協議会 ⑧高知県文化生活部国際交流課 ⑨特定非営利活動法人Brain ⑩JICA四国(独立行政法人国際協力機構四国支部) ⑪高知県国際交流協会

■来場者数(推計)：6,500人



▲ブルキナ・ファソ出身のラシナ選手と同国に赴任した青年海外協力隊OBによるトーク



▲カボエイラ(ブラジル)ダンス



▲出展の様子(オイスカ高知県推進協議会)



▲ステージプログラム



▲JICAボランティア相談ブース



▲出展の様子(Brain)



▲出展の様子(奥村多喜衛協会)



▲高知県友好姉妹都市パネル写真展



▲アジア各国の研修生による歌&舞踊



▲フラダンス

※「国際協力の日」とは?

日本の政府開発援助(ODA)は、1954年10月6日に開発途上国のための国際機関「コロンボ・プラン」に参加したことから始まり、翌年から研修員の受け入れや専門家の派遣といった技術協力を開始しました。日本政府はコロンボ・プランに参加を決めた10月6日を「国際協力の日」と定め、毎年その前後に全国各地で国際協力に関係するさまざまなイベントが行われています。

「高知の寿司とおきゃく文化を楽しもう」

高知SGG善意通訳クラブ イベント部 山下 道子

10月25日(日)、高知市文化プラザかるぽーとにおいて、国際交流イベント「高知の寿司とおきゃく文化を楽しもう」を開催しました。参加者相互の文化理解とコミュニケーションを深めることを目的に、外国人16名を含む総勢39名の参加者、さらに7名の寿司講師を加えてにぎやかなイベントとなりました。

当日はまず、高知の「おきゃく」で出される皿鉢料理や各種の寿司について写真を見ながら紹介、その後、こけら寿司づくり体験を行いました。東洋町から駆けつけた講師が作り方やこけら寿司の由来などを語り、日本人がそれを外国人に通訳しながら和やかに交流しました。

その後、場所を移し、高知では、「おきゃく」の際に独特の余興「箸拳」「しばてん踊り」が行われていることを紹介し、箸拳のやり方を英語・中国語など言語ごとに分かれて説明しました。その後3人1組でチームを組み、トーナメント方式で対戦、負けた人には杯の酒の代わりに渋茶を飲んでもらいました。対戦が始まると日本人だけでなく外国人も真剣となり白熱した勝負が続きました。一方、しばてん踊りはスタッフの踊りを真似ながら、手ぬぐいを被って寿司講師陣も巻き込み全員で踊りました。

その後は調理室へ戻り、皿鉢に美しく盛り付けられた田舎寿司やこけら寿司を食べながら交流タイムとなりました。参加者だけでなく、寿司講師も各テーブルに座って打ち解けた時間を過ごしました。また、箸拳大会の優勝・準優勝チームの表彰式を行うとともに、参加者に感想を述べてもらいました。このイベン

トでは、初めて寿司づくりをする外国人と、外国人に教えるのは初めてと心配していた寿司講師陣、それを日本人が言語面でサポートする形となりました。特に交流タイムでは、寿司講師が外国人にこけら寿司の感想を聞いたり、外国人の方も田舎寿司の材料などの疑問点を質問し、自分の国では食べたことのない素材だと話して笑顔が絶えない時間を持つことができました。

おきゃく文化紹介では、各言語に翻訳して外国人にわかるように説明するのはやはり難しく、言語表現レベルを高めるいい経験ともなりました。外国人は対戦を重ねながら理解を深め、勝ち進んだグループは勝負するごとに真剣になっていき、箸拳のおもしろさも味わってもらえたように感じました。

外国人からは、寿司づくりは初めてでとても面白かった、箸拳のルールは難しかったけど楽しめた、手ぬぐいをかぶってしばてん踊りを踊るのが面白かった、皿鉢に盛られた田舎寿司やこけら寿司が見た目にも豪華でおいしかった、楽しい写真が撮れた等の感想を聞くことができました。寿司講師からは、カタコトの英語を使って外国人と交流したり、寿司づくりも順調にできて楽しい時間を過ごせましたというお言葉をいただきました。その他の参加者からは、外国人、日本人参加者、寿司講師が混じりあった交流が楽しくてよかったという感想をいただきました。

終了後も、参加者同士が互いに連絡先を交換したり、一緒に写真撮影を行うなど、名残惜しそうな様子でイベントは幕を引きました。



しばてんダンス。手ぬぐいの輪が広がりました



こけら寿司制作中の参加者。おぼつかない手つきです



講師の鮮やかな手さばきに、見とれたり写真を撮ったりと盛り上がりました

インバウンドを呼ぶ 高知県の魅力

皆さんは「インバウンド」という言葉を聞いたことがありますか？様々な意味がある言葉ですが、観光関連業界では「訪日外国人旅行者」のことを指します。近年、このインバウンドが日本全体で急増しており、2013年には約1036万人だったものが、2014年には1341万人に増え（出典：日本政府観光局）、2015年には1970万人を超えました。国内人口が自然減となった今日では、インバウンドの取り込みが観光関連業界での明るい兆しになるとも考えられています。

高知県を訪れるインバウンドの方々の延べ宿泊者数（従業員数10人以上の宿泊施設を対象）も、2012年に1.8万人泊だったものが、2013年に約2万人泊、2014年に約3万人泊、2015年には速報値で約4.1万人泊と、2012年から4年連続で過去最高を更新しておりますが、47都道府県中では46位と、全国レベルでは大きく出遅れているのが現状です（出典：観光庁）。

これには様々な理由が考えられますが、最大の理由は、高知県が海外でほぼ知られていないことです。世界的に有名な観光資源がないことや、首都圏や大消費地からも離れていることなど、頑張っても一筋縄ではいかないこともあります。しかし、せっかくの明るい兆しを簡単に諦めるわけにはいきません。

旅行先を決める際には、知られていないことは致命的な痛手となります。知られていなければ、選択肢のひとつになることさえないからです。高知県のことを一人でも多くの外国人に知っていただくこと。そして海外へ広く高知県を浸透させていくこと。そのためには、外国人が観光情報収集源として最も利用している、インターネットの活用が必須です。

以上の経緯から、平成27年9月7日、（公財）高知県観光コンベンション協会の外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JAPAN」(<http://visitkochijapan.com/>)はオープンしました。これにより、高知県の魅力あふれる観光情報を、5言語（英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、タイ語）で全世界に向けて発信できるようになり、高知県を海外にPRする、第一歩を踏み出したと言えます。

轟の滝
(香美市香北町)



このサイトの第一の特徴は、トップページに大きなスペースを設けて動画を再生しているところです。サイトを訪れた人は、まずこの動画を観ることとなります。動画には、空撮技術を活用した迫力のある映像を多く用いており、このインパクトの強い動画で観る者の心を掴み、サイト内への誘導を狙っています。なお、この動画は、You Tubeでも公開しています(https://www.youtube.com/c/Visitkochijapan_movie)。

そして第二の特徴は、外国人目線に立ったサイト構成です。高知県のことを知らない外国人の方々にも興味を持っていただきやすいよう、それぞれの言語圏の趣味・嗜好に沿って、言語別に内容をアレンジしています。

まず、サイトの全体構成は、事前に対象とする市場の外国人に実施したインターネット調査および対面調査の結果を参考にしました。調査結果から高知県の観光資源に対する各言語圏別の趣味・嗜好の傾向を把握したうえで、各言語のページで目立つ場所に、人気の高い観光資源を配置していま

にご淵
(いの町)



び込む！ 観光情報を世界へ！

高知県観光政策課 主幹 永山 誠一

す。更にオープン後の仕組みとして、ページビュー数の多いページが目立つ場所へ自動的に配置される機能も装備しています。

また、外国人ライター(上記5言語圏から1人ずつ)に高知を実際に観光していただき、その体験記を掲載しています(<http://visitkochijapan.com/special/>)。体験記には、ライター陣の生の感想とともに、楽しんでいる画像も多く掲載しました。これは、綺麗な風景や美味しそうな食事の写真だけでなく、実際にそこで楽しんでいる外国人の姿を見せて、高知県で体験できることを具体的にイメージしていただくことが、海外でまだ知られていない高知県の魅力を伝えるためには効果的であると考えたためです。

そのほか、海外旅行では複数の地域を訪れるのが一般的ですので、他県の観光地を含めたモデルコースを掲載しました。実際のインバウンドの方々の動きに沿って、より実践的かつ魅力的なルートをご紹介します(http://visitkochijapan.com/plan_your_trip/)。

第三の特徴としましては、高知県に訪れたインバウンドの方々の役に立つ情報を掲載しているところです。具体的には、外貨両替ができる窓口や無料公衆無線LANの位置情報などの便利情報です(http://visitkochijapan.com/travelers_kit/)。これらの便利情報は、訪日旅行中のインバウンドの方々であれば誰でも必要となる情報であるため、掲載する情報に言語圏別の趣味や嗜好の差をつけることなく、網羅的に掲載しています。



仁淀川ラフティング
(いの町)

以上が、外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JAPAN」の主な特徴です。随所に様々な工夫を凝らしたサイトですが、これで安心してはいけません。なぜなら、あくまでこのサイトは海外での高知県の認知度を上げるためのツールであり、サイトを作っておけば、いつの間にか認知度が上がるわけではないからです。

認知度を上げるための、近道はありません。一過性のPRでは、その効果を地球の裏側には伝えることはできません。様々な施策を組み合わせることで実施し、海外で『Kochi』を徐々に浸透させていく、地道な取り組みが必要です。

地道な取り組みには、お金をかけなくてもできることがたくさんあります。皆さんも、ご友人やお知り合いに外国人の方々がいらっしゃる方は、ぜひ「VISIT KOCHI JAPAN」をご覧くださいよう、お薦めください。また、Facebookのアカウントをお持ちの方は、Facebook版「Visit Kochi Japan」もご覧ください(<https://www.facebook.com/visitkochijapan>)。こちらも同じく9月にオープンしています。今のところ英語のみでの情報発信ですが、頻繁に更新して高知県の魅力を様々な切り口から発信しています。

高知県を訪れるインバウンドの方々を増やして高知を元気にしていくため、海外での高知県の認知度を向上させる様々な施策を展開する予定です。今後の高知県の取り組みに、ぜひご期待ください。

Tシャツアート展
(黒潮町)



カンボジア王国からの便り



シニア海外ボランティア(看護師) 下司 政代

カンボジアに来て早いもので6ヶ月経過いたしました。首都プノンペンでの研修を終え、任地へ移動する時は、シニアも青年も含めて私だけでしたので、やや寂しいものがありました。しかし任地のJICAの若い隊員達が、あれこれ教えてくれて不安だった生活も慣れてまいりました。

こちらのお正月は4月ですが、1月1日のInternational New Year Day と1月7日のVictory over Genocideは休日でした。バタンバン市の中央を流れるサンカー川沿いには、年末から1月7日迄夜店が出てとても賑やかでした。2年前から始まったようですが、打ち上げ花火でお祭り開始、そして31日のカウントダウンと花火、最終

日のVictory over Genocideは一層にぎやかに花火が上がりお祭りが終わりました。過酷なポルポトの時代を生き残り、今は賑やかなお祭りも、きれいな打ち上げ花火を楽しめるようになった平和なカンボジアということなのだと思ながらアパートの窓から花火を眺めていました。しかし日中は白く輝く太陽の下のこの地では、感覚はどうしてもお正月になりません。

私の活動先のBttambang Provincial Referral Hospitalも、1日と7日以外は通常と変わらない勤務でした。この病院は270床のベッド数があり、救急外来、外科、内科、産婦人科、小児科、眼科、歯科、結核、AIDS等の治療を行っています。大きい病院という意味の「モンティーペート トム(病院 大きい)」とも呼ばれます。フランス統治時代の名残の

コロニアル風の建物が、広い敷地に散在していますので移動の動線が長くて大変です。庭には遠くから見ると枝が丸く見えるオオギヤシもそびえてカンボジアの病院の風景そのものです。

この病院は、看護部門の日本人ボランティアは私が初めてですが、オーストラリア、イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、カナダなど多くのボランティアがやって来ます。私のカウンターパートは看護部の代表者でソッターさんといい、フランス語、英語ができる男性です。彼の上手な英語のおかげで、訓練を受けた私のクメール語はますます退化しております。市場に買い物に行っても外国人観光客が多いこの街では、簡単な英語で買い物ができます。国際化をいう日本より「現実的な国際化を生きている」カンボジアの人々です。病院の伝票など書類は、フランス統治時代の名残でしょう。フランス語とクメール語です。

毎朝のミーティングで報告される死亡例などは、日本だったら死なずに済んでいるだろうな、医療器具があれば簡単に診断がつきそうなのにといった内容があり、切なくなることもあります。私は看護管理の指導ということでの派遣で、看護ケアユニット、トレーニングユニット、バタンバン看護アソシエーションというプレートのある建物にあります。ここは実習で各病棟へ配置される前・中間・終わり等に看護学生に講義をしたり、各病棟のチーフ会が行われたりしております。また看護系ボランティアの対応、院長からの指示等に対応する司令塔な様な役割を担っている所といえますが、まだまだ改善するところが多いといえます。



カウンターパートのソッターさんとオフィス前で



看護学生に実習について説明する師長ラーシーさん

バタンバン市の名前の由来のター・ドンボン・クロニユーン像



高知県海外技術研修員が 国際交流イベントに参加

当協会では、高知県からの委託を受け、高知県研修員受入事業(※)に係る業務を行っています。2015年度に受け入れた海外技術研修員3名が、伊野商業高等学校と高知南高等学校で行われた国際交流イベントに参加しました。

伊野商業高等学校での「イングリッシュデー」は11月27日と12月11日に行われました。ツーリズムコースの生徒19名と英語でコミュニケーションを取りながら、研修員の母国について紹介したり、ケニアとインドネシアからの留学生と共に生徒からあやとりやけん玉などの日本の文化を教えてもらいました。

また、12月15日に高知南高等学校で開催された「インターナショナルデー」には、研修員も含め11ヶ国の外国人が講師として参加しました。国際科の生徒90名がグループに分かれ、各ブースを回りながら、それぞれの国の言語や文化などを学びました。

研修員は、生徒たちが少し大人しいことに驚いたようですが、両校での国際交流イベントを通して、改めて母国と日本の文化の違いを感じたり、母国を紹介する

機会に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。



「イングリッシュデー」での一コマ

(※)この事業は、高知県が友好姉妹都市であるフィリピン・ベンゲット州から協力交流研修員を、また中南米諸国(ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン)から海外技術研修員を受け入れ、必要な技術や知識を習得させ、研修員の属する国の発展に寄与するとともに、県民等との交流を通じて友好親善を深め、県の国際化に貢献できる人材を養成することを目的としています。



「インターナショナルデー」での集合写真

異文化理解講座を 四万十市と安芸市で初開催!



当協会では、外国の多様な文化や習慣を紹介する「異文化理解講座」を高知市内において平成6年度より年2回開催してまいりました。より多くの県民の皆さまに異文化に触れていただくよう四万十市と安芸市のご協力を得て、平成27年12月に異文化理解講座を両市で初開催いたしました。

5日の四万十市では31名、12日の安芸市では39名の方々にご参加いただき、「高知県内にいる外国人の方のお話をもっと聞きたい」「また開催してほしい」「興味深いお話だった」とのお声をちょうだいしました。

今回の異文化理解講座では、高知県国際交流員だけでなく、高知市、四万十市、田野町の国際

交流員の3名にも講師として初めて参加していただきました。高知市国際交流員のマリサさんから「インドネシアやイスラムの文化をシェアすることができて、うれしいです」との感想をいただきました。

来年度以降も高知市以外での講座開催を継続し、異文化理解が深まる事業を行っていきたいと考えていますので、ぜひご参加ください。



異文化理解講座in四万十市(中国講座)の様子



異文化理解講座in安芸市(アイルランド講座)の様子

INFORMATION BOARD

国際交流員(韓国) 退任あいさつ



きむ じえ
金 智愛

5年前、東京でのオリエンテーションを終え、高知空港に向かう飛行機の中でワクワクしていたのが記憶に新しいですが、あっという間に時間が経ち、退任のあいさつをする日が来ました。振り返れば、なんでも屋さんとしての5年間でした。時にはスーツを着て通訳をしたり、時には韓服(チマチョゴリ)を着て韓国の文化を紹介したり、時には韓国語講師として頑張った時もありました。どれも貴重な経験で、いい思い出です。その中でたくさんの方々との出会いもあって、そのご縁をこれからも大事にしていきたいです。

私は自然豊かで温かい人々に恵まれた高知県が大好きになりました。見上げた夜空の星や初めてホテルを見た時の感動など、高知県にはステキな思い出がいっぱい詰まっています。日本では、「大学生活は人生の夏休み」という言葉がありますが、この5年間は私の人生にとって夏休みのようなものでした。

私を通して韓国のことを理解してもらうのが国際交流員の立場なのでプレッシャーを感じた時もありましたが、微力ながら日本と韓国の懸け橋になったこの5年間は決して忘れられません。いつも笑顔で優しくくださった高知県の皆さん、本当にありがとうございました。5年間、お世話になりました。第2のふるさとである高知に里帰りする時にはぜひ温かくお迎えください！



山内神社にて

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2016「お遍路オールスターズ」

あなたの人生に「GENKI」を足してみませんか？毎年恒例の土佐弁ミュージカルを開催します！

今年のタイトルは「お遍路オールスターズ」。「修行の道場」として知られる土佐の霊場で、ある夜、旅をあきらめかけているお遍路さんたちがとある旅館に集まります。その「あきらめたい」理由とは…？

たぬき・しばてん・魔法使い・おせっかいさんなど、土佐ならではの様々な主役や敵役が集まって、大冒険をしながら友情や許しあいについて学び直します。みんなあも一緒にこの大冒険に乗り出してみませんか？



2015年土佐弁ミュージカル本番中に自撮り棒で撮った1枚

入場料は無料ですが、募金活動を行っています。海外留学を希望する高知県出身の高校生・大学生を支援する助成金として活用しますので、ご協力をお願いします。

公演日時・会場

4月9日(土)	四万十市	四万十市立文化センター	18:00
4月10日(日)	四万十町	くぼかわ四万十会館	13:00
	佐川町	桜座	18:30
4月16日(土)	室戸市	室戸小学校体育館	13:00
	安芸市	安芸市民会館	18:00
4月17日(日)	本山町	本山プラチナセンター	13:00
	高知市	県民文化ホール(グリーン)	18:30

※開演時間は変更される場合があります。

お問い合わせ

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル実行委員会
代表: クレア・マークス(高知県国際交流課内)
住所: 〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20
TEL: 088-823-9605
Email: genkiseinenkai@gmail.com
ブログ: <http://tosabenmusical.blogspot.com/>
フェイスブック: GENKI 青年会・土佐弁ミュージカル

